

吾妻史料集録 上卷

復刊版



群馬地域文化振興会



吾妻史料集錄

上卷

吾妻文化俱樂部





前事之不

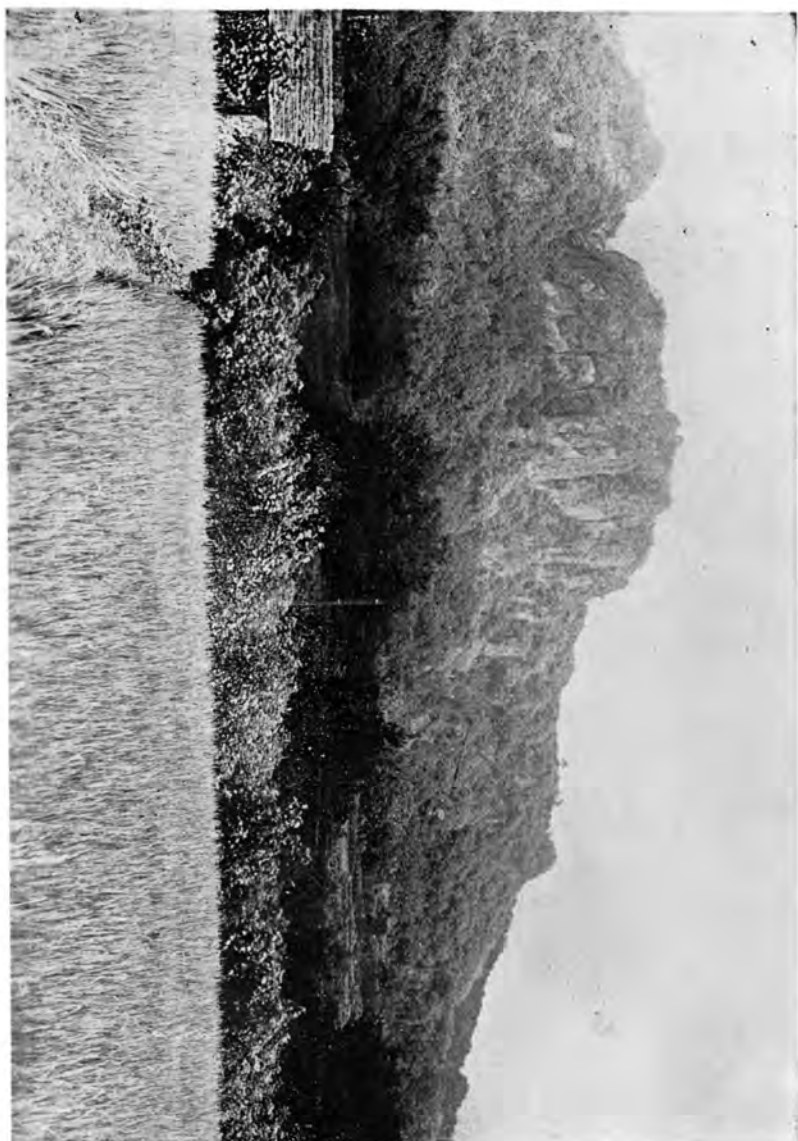
忘後事

之師也

八十二叟

吾所書





景 全 山 櫃 岩 蹟 史
城址は臺地の右の藤嶋



傳 齋藤越前守基國像

岩櫃城主齋藤氏第六代。永祿六年甲州方眞田幸隆の攻むる所となり
越後へ亡命す。本木像は善導寺齋藤堂に安置せらる。



吾妻郡略記の著者

上原政右衛門代完の墓

墓は原町善導寺にあり。法名演誉義詮暢翁居士。享保十九年八月歿
行年七十五

序

吾妻文化俱樂部が、新井信示君編する所の「吾妻史料集録」を
もたらし、序を求めらる。予これをうけてつらつら本書を熟讀
するに、我が郷土吾妻が持つ豊富なる文化の傳統が、まことに
微に入り細をうがつて集録せられ、編者の冷徹清澄なる史眼
と、風致ある文章は、この郷土史をして新鮮なる生彩を放たし
めて居る。

我等は過去に於て、篤志ある人士に依りて編纂を得た吾妻
郷土誌及び吾妻郡誌を有し、更に續いて追録第一輯を有した
が、茲に新井君の手に依り、當然出づるべく待望されたこの集

録を得たことを欣び、而して予自身、光榮ある吾妻人の一員として、君に深甚なる敬意と、萬腔の感謝を捧ぐるものである。

本書、必ずや刻下喫緊の重要事たる地方文化振興の面に大なる寄與を果すべく、且又後進を益する眞に意義深き文献ともなるであらうことを、予は確信して疑わない。

昭和二十四年九月

群馬縣知事 伊 能 芳 雄

序 言

吾妻文化俱樂部が郡の歴史を考ふべき資料として、郡内諸家に秘藏せられる古書古記録類を蒐集して活字本に收め同好の士に頒たうといふ事を企てたのは、まことに時機を得た好箇の舉である。

元來本郡内諸家に傳はて居る郡史資料としての古書古記録は割合に少い。而も異なる名稱を冠しながら内容に於て大部分又は一部分行文まで同じであつたり、頗る似通つて居たりするものが多い。併し又それ／＼に幾分の特色は持つて居るので省略除外するのは惜しく力めて之を収録する事とし

た次第である。諸家秘藏書中「吾妻郡略記」(上卷)と「修驗岩櫃シユケンイワビツ語」(下卷)と「天明淺間山津波實記」(下卷)との三つはそれモノカケリ著者自筆の原本が現存するが、其の餘はいずれも傳寫本である。傳寫本には甲家のものと乙家のものとの間に大抵幾分の相違があるので、出来る丈比較して校訂したものを原稿に廻した。此の比較校訂には主として私が當つたが、印刷及出版に關する一般の事項は富澤碧山、小林好三郎、山口武夫の三君が當られたのである。本史料集録の出現により、貴重なる資料の散佚埋滅を防止し、且つ同好諸君子が一々諸家に就いて借覽する不便を、古書、古寫本特有の難讀難解の文字文句に苦しむ事

を少からしめることを得るならば文化俱樂部の本書出版の目的は此に達せられたものである。

今本集録上巻の印刷成るに當り其の誕生の次第を略叙して序とする。

昭和二十四年九月

新 井 信 示

例 言

一、本篇には吾妻記、吾妻軍記、吾妻古戦録、原町岩櫃城記録、吾妻傳説、吾妻郡略記、吾妻太郎記を収録した。

一、校訂の際難讀の文句は讀み易い様に改めたものもあるが、成るべく原意原本の面目とを失はせない爲めに私意を加へない様に力めた。

一、讀下し兼ねた文字、文句又は不審の箇所は其のまゝとして「ママ」と肩書して置いた。

一、不明の文字は□を以て埋めて置いた。

一、疑はしき文字文句には（何々カ）等と傍註して置いた。

一、（何々缺）とあるは原本の脱漏、又は虫に蝕まれた箇所にして判讀し兼ねたものを示したものである。

吾妻史料集錄上卷

目次

吾妻記	(一)
吾妻軍記 圓聖法印著	(六五)
吾妻古戰錄	(八五)
原町岩櫃城記錄	(一二五)
吾妻傳說	(一三七)
吾妻郡略記 上原政右衛門代完著	(一五三)
吾妻太郎記	(一八五)